



・FUTURE

・Pick Up

・セミナーのご案内

・学会報告さーと

・はびきのパーソン

・地域医療連携 NEWS

・連携医療機関のご紹介

耳鼻咽喉・頭頸部外科

「慢性鼻副鼻腔炎の診断治療トピックス」

緩和ケアチーム

「第31回 医療でつなぐ地域連携ネットワーク

South Osaka Cure&Care (SOCC)」開催レポート

第39回 日本環境感染学会総会・学術集会

第40回 日本小児臨床アレルギー学会学術集会

医務局 看護部

救急診療科

「院内外の連携を通じて、より多様な救急対応に努めております」

医療法人加藤医院さま 医療法人森クリニックさま



慢性鼻副鼻腔炎の診断治療トピックス

副院長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長

かわしま

かよこ

川島 佳代子

慢性鼻副鼻腔炎の診断と治療の変遷

慢性鼻副鼻腔炎とは発症から12週以上持続する鼻副鼻腔における炎症の総称で、さまざまな病因と病態を含んでいます。従来は細菌、あるいはウイルス感染を契機に発症し、炎症が遷延する病態が大部分を占めており、蓄膿という名称の方が患者さんにはなじみがあるかもしれません。欧米では病因での分類ではなく、鼻茸の有無で分類することが一般的で、CRSwNP（鼻茸あり慢性鼻副鼻腔炎）とCRS s NP（鼻茸なし慢性鼻副鼻腔炎）という名称が使われています。

慢性鼻副鼻腔炎は、マクロライドを少量長期投与する治療が確立され、治癒率が増加しましたが、平成12年頃から、マクロライド療法が無効で、ステロイド薬が有効な好酸球浸潤を伴う副鼻腔炎が増加してきました（表1）。この病態は“好酸球性副鼻腔炎（Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis ; ECRS）”と言われ、再発性、難治性であり、指定難病に指定されています。これらの病態は、鼻腔の炎症を伴っていることがほとんどであるため、令和6年からは日本鼻科学会では慢性鼻副鼻腔炎と呼ぶことを提唱しています。

表1 好酸球性鼻副鼻腔炎と従来からの慢性鼻副鼻腔炎の鑑別

	好酸球性鼻副鼻腔炎	従来からの慢性鼻副鼻腔炎
炎症の病態	2型炎症	1型・3型炎症
好発年齢	成人以降に発症	全年齢で発症
主症状	嗅覚障害、鼻閉	膿性鼻漏、鼻閉
優位な病変部位	篩骨洞	上顎洞
マクロライド療法	無効なことが多い	有効
経口ステロイド	著効	有効、無効ともにあり
主な細胞浸潤	好酸球	好中球・リンパ球
合併症	気管支喘息 N-ERD（NSAID s 過敏喘息）	気管支拡張症

日本鼻科学会 鼻副鼻腔炎診療の手引き（2024年63巻1号p.1-85）を参考に著者作図

好酸球性鼻副鼻腔炎の特徴

好酸球性鼻副鼻腔炎は成人以降に発症し、嗅覚障害と、多発する鼻茸による鼻閉が特徴です。二カワ様の粘稠な鼻汁があり、CTでは篩骨洞を中心とした陰影を呈します。血中、組織中好酸球が増多しており、気管支喘息、好酸球性中耳炎を高率に合併し、NSAIDs過敏喘息（N-ERD）の合併もしばしば認めます（図1）。

現在では診断基準としてJESRECスコア（表2）が用いられており、病側、鼻茸の有無、CT所見、血中好酸球（%）で合計11点以上であれば、好酸球性鼻副鼻腔炎と診断できますが、確定診断には、鼻茸組織中の好酸球数が400倍視野で平均70個以上あることを確認することが必要です。この病態は欧米におけるCRSwNPと類似しており、現在は欧米のガイドラインでも“ECRS”との名称が記載されています。

表2 JESRECスコア

項目	スコア
病側：両側	3
鼻茸あり	2
CT所見 (篩骨洞陰影/上顎洞陰影 ≥1)	2
血中好酸球数 (%)	
2 < ≤5%	4
5 < ≤10%	8
10% <	10

スコアの合計；11点を好酸球性鼻副鼻腔炎とする
確定診断には、組織中好酸球数が高倍率で70個以上を満たすことが必要

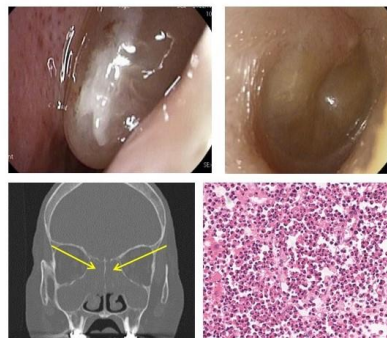


図1 好酸球性鼻副鼻腔炎の特徴

- (左上) 鼻腔内のポリープ
(右上) 鼓膜を通して、中耳内の二カワ様貯留液が透見できる
(左下) CTにて篩骨洞優位な陰影（黄色矢印）を認める
(右下) 好酸球性鼻副鼻腔炎の病理所見 多数の好酸球浸潤を認める

慢性鼻副鼻腔炎の診断治療トピックス



当センターの
耳鼻咽喉・頭頸部外科の詳細は
こちらよりご確認できます

【所属学会・資格】

平成元年 徳島大学卒業

大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科入局後、関連病院を経て、平成29年より同職。

資格は日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医指導医、日本アレルギー学会指導医

日本鼻科学会 鼻科手術暫定指導医、日本喘息学会専門医、厚生労働省認定補聴器適合判定医など。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会代議員、日本アレルギー学会代議員、日本鼻科学会理事

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 推薦評議員、日本頭頸部外科学会 評議員

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員、および口腔アレルギー症候群診療ガイドライン作成委員などを務める。

慢性鼻副鼻腔炎の診断

慢性鼻副鼻腔炎を疑われる患者さんの診断には、アレルギー性鼻炎、真菌症、腫瘍病変など、他の鼻疾患も考慮し広く検査を行うことが重要です。具体的には、内視鏡による鼻副鼻腔の観察、CT検査、MRI検査、血液中の好酸球検査にできるだけ検査を行い、診断を迅速にできるように心、アレルギー検査、嗅覚検査、呼吸機能検査、呼気NO検査などで診断を行うこととなりますが、当科では初診当日がけています。副鼻腔疾患は下気道の疾患の合併も多いため、アレルギー・リウマチ内科、呼吸器内科と連携して治療を行っています。

慢性鼻副鼻腔炎の治療

慢性鼻副鼻腔炎の治療は、まず抗菌薬投与、続いて少量マクロライド療法を投与しますが、3ヶ月以上投与しても改善しない場合、手術を検討します。現在副鼻手術は内視鏡下で行われており、当科でも年間のべ300件を超える内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っています。デバイスの進歩もめざましく、当科では内視鏡解像度も優れた4Kシステムと、手術部位を確認できるナビゲーションシステムも導入しており、安全で侵襲の少ない手術を行うよう心がけています（図2）。

手術しても再発している鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎症例などを対象に、ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体であるDupilumabが令和2年から保険適用となりました。当科では手術後の再発症例は少ないですが、投与基準を満たし希望される症例については、積極的に投与を行っています。



図2 内視鏡下鼻副鼻腔手術の様子

FUTURE

好酸球性鼻副鼻腔炎は、診断、治療とも体系化されつつありますが。まだ病態がすべて解明されているわけではなく、難治症例はいまだ少なくありません。嗅覚障害、鼻閉、さらに中耳炎からの難聴、気管支喘息からの呼吸器症状などが生じれば、QOLの低下につながります。今後、好酸球性鼻副鼻腔炎に対する抗体治療薬治療もさらに進むことが予測されます。

当科では臨床データをもとに、学会発表などで情報発信していきたいと思っています。今後ともご紹介どうぞよろしくお願いいたします。

Osaka Habikino Medical Center

Pick Up



緩和ケアチーム

緩和ケアチームは医師2名（肺腫瘍内科主任部長、副部長）、看護師5名（がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師）、薬剤師4名（日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師）、臨床心理士1名、大阪精神医療センター精神科医師2名で構成されています。



写真について

P4（上・下）：回診前のチームカンファレンスの様子。

P5（上）：病棟にて回診を行う様子。

ナースステーションで、情報共有などを行っています。

チームカンファレンスや病棟回診を通して、スタッフや患者さんとコミュニケーションを密にとり、目標が達成できるように支援しています。がんと向き合う患者さんに寄り添い、最善を尽くしています。

院内での取り組み

がんの患者さんの様々な苦痛を緩和する取り組みを行っております。依頼内容は疼痛緩和が82%を占めておりWHO方式がん疼痛治療法に則り、患者さんの状態に応じて薬剤や投与経路の選択を行っています。

せん妄、不眠、不安などの精神的フォロー、吐き気・食欲不振、呼吸困難など診断時から治療と並行して必要な緩和ケアが提供できるように主治医および看護師と連携しています。

主治医、看護師、患者さんからの依頼を元に、チームで直接患者さんを診察させていただき、多職種で協議します。依頼に対しては速やかに対応し、苦痛緩和に努めています。

また毎週木曜日は、回診前にチームカンファレンスを行い、情報共有及び方針決定を行っています。カンファレンスで必要と判断された場合にはリエゾン精神科医とも連携し気持ちのつらさに対応しています。



地域との連携について

在宅で終末期を過ごされる患者さんに対して、「途切れのない緩和ケア」を提供できるように、主治医とも協力しながら在宅医の先生、訪問看護師への連携をはかっています。

特に、患者さんの意向を大切にしながら、スタッフと協働し、麻薬やサンドスタチン等をはじめとした薬剤及び持続皮下注射などの調整を行っています。そして、退院後連携してくださる在宅医の先生や訪問看護師につなげています。



第31回 地域でつなぐ地域連携ネットワーク SOCC (SouthOsakaCure&Care)

開催レポート

令和6年8月17日(土) 17:00~19:20に、スイスホテル南海大阪にて、SOCC (SouthOsakaCure&Care) を開催いたしました。

ご参加くださいました皆さまには、心より感謝申し上げます。

呼吸器系診療の勉強会として発足した本会ですが、今回テーマを「がんと栄養」と題し、教育講演2演題、特別講演1演題として、呼吸器関連以外の演題も盛り込み、幅広く医師や医療従事者の方々にご参加いただける内容にいたしました。

院内外含め63名の方にご参加いただき、本会終了後の情報交換会も大盛況でした。参加者からは「勉強になりました。」「来てよかったです。」等の嬉しいご意見をいただき、次回開催への大きな励みとなりました。



第31回 地域でつなぐ地域連携ネットワーク

South Osaka Cure&Care <当日のプログラム>

- | | |
|-------|--|
| 16:50 | 情報提供「呼吸器関連医療機器について」 帝人ヘルスケア株式会社 |
| 17:00 | 開会の辞 大阪はびきの医療センター 院長 山口 誓司 |
| 17:05 | 【教育講演】座長 大阪狭山市医師会 会長 芝元 啓治 先生
『悩めるアドバンス・ケア・プランニングの道標』
大阪はびきの医療センター 看護部 慢性疾患看護専門看護師 竹川 幸恵
『当院における在宅ハイフローセラピー導入の症例について』
大阪はびきの医療センター 呼吸器内科 主任部長 森下 裕 |
| 18:15 | 【特別講演】座長 大阪はびきの医療センター 副院長 川島 佳代子
『がん治療で意識している栄養管理の視点』
大阪国際がんセンター 栄養腫瘍科 主任部長 飯島 正平 先生 |
| 19:15 | 閉会の辞 大阪はびきの医療センター 肺腫瘍内科 主任部長 鈴木 秀和 |

※終了後に情報交換会を行いました。

【共催】 柏原市医師会 羽曳野市医師会 藤井寺市医師会 松原市医師会 大阪狭山市医師会 富田林医師会 河内長野市医師会
大阪はびきの医療センター 帝人ヘルスケア株式会社

学会報告 さるーと

第39回 日本環境感染学会総会・学術集会
第40回 日本小児臨床アレルギー学会学術集会



第39回 日本環境感染学会総会・学術集会

令和6年7月25日（木）～7月27日（土）国立京都国際会館



「感染対策漫画による感染対策の意識改革及び 行動変容の効果の調査」

感染管理認定看護師 橋本 美鈴

私は感染管理認定看護師として感染対策の院内広報漫画を作成し、全職員が楽しく学べるように工夫しています。そして看護師の「意識」と「行動」が向上できたか調査すると意識・行動とも向上でき漫画の効果があったと思います。今後も院内外関わらず地域全体で感染対策に力を入れていきたいと思っています。

当センターでは安心、安全な環境作りのために様々な手法を用いてスタッフの感染対策の意識向上に取り組んでいます。

第40回 日本小児臨床アレルギー学会学術集会

令和6年7月13日（土）～7月14日（日）梅田スカイビル

学会シンポジスト、ハンズオン講師、座長および一般演題の演者として、小児アレルギーに関係する多くの看護師、薬剤師、栄養士や小児科医、耳鼻咽喉科医が参加しました。さらに小児アレルギーエデュケーターの新規資格取得者1名（当センター看護師）の認定式も行われました。



当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けます。



医務局 皮膚科 医員

木村優香
Kimura Yuka

大人もハマる！名探偵コナンの世界

皮膚科の木村と申します。地域の先生方、関係者の皆様にはいつも大変お世話になっております。

私からは皆様のお仕事終わり、あるいはお休みの日に楽しんでいただけるテレビ番組をご提案します。それは、名探偵コナン 土曜18：00～です！

ミステリーが中心、原作のトリックには再現性があり、実際にできるものを採用しているようです。ラブコメ、友情、家族愛、お仕事要素など様々な魅力が詰め込まれていて飽きません。大人もハマれる名作です。

今年30周年を迎えました。作者の青山剛昌先生は、はじめの20年間は1日3時間睡眠だったようで、ここまでロングランになるとは思っていなかったとのことでした。「コナン30周年展」のほか、ロンドン ナショナルギャラリーとのコラボなど、大盛り上がりの1年になっています。

気軽にお楽しみいただける機会かと思ひます、お忙しい日々の癒しになれば幸いです。



はびきの パーソン ～当センターのスタッフをご紹介します～



看護部 救急外来
看護師

松岡 亜優
Matsuoka Ayu

気づけばインストラクター

当センターに就職したころは、夜勤ありの変則勤務であったため、平日の休みには何をして過ごしたらいいかわからず、だらだらと過ごしていました。同じ部署の先輩に相談したら「ダイビングをやってみたら？」と言われたことがきっかけでスキューバダイビングをはじめました。最近は定期的に潜りに行って、今はインストラクターの免許まで取ってしまいました。

私の一押しダイビングスポットは、日帰りで行ける白浜か宮古島です。白浜のいいところは、沈没船があって時期によってはイルミネーションなどの飾りつけされていたり、天然記念物のイソギンチャク、クマノミ、おっきいコブダイもいます。また海も透き通ってとてもきれいです。宮古島は、洞窟ダイビングやマンタ、ウミガメ、カラフルな珊瑚礁もあり、ディズニー映画のファインディング・ニモのような世界観が楽しめます。スキューバダイビングをした人にしか味わえない神秘的空間が、なんとも言えない感動でハマっています。



当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るくがんばっています。今後とも「はびきのパーソン」コーナーで紹介していきますので、少しでも当センターのスタッフに親しみをいただけると幸いです。



救急診療科 主任部長

ひろた てつや

廣田 哲也

平成6年卒 大阪市内二次・三次救急施設での勤務を経て、令和4年に当センター赴任
日本救急医学会専門医・指導医、日本病院総合診療医学会認定医・評議員、麻酔科標榜医
日本救急医学会ICLS/ALS大阪認定コースインストラクター・ディレクター



当センターの
救急診療科の詳細は
こちらよりご確認できます

院内外の連携を通じて、より多様な救急対応に努めております



これまで、当センターは“呼吸器・アレルギー、肺腫瘍、感染症が専門の病院”として皆さまにご認知いただいていたと存じます。現在の大阪はびきの医療センターは令和3年4月より地域医療支援病院として救急医療の提供も果たすべき役割の一つと掲げ、令和4年4月には救急診療科が開設されました。以降、当科と同時期の整形外科をはじめ、腎臓内科、糖尿病・内分泌代謝内科が新設され、より多様な患者さまへの専門診療が可能となりました。

診療時間内（平日9時～17時30分）は救急診療科医師が救急外来に常駐し、院内各科の協力のもとで当センター受診歴の有無や重症度（三次救急を除く）を問わず、種々の傷病者の初期診療にあたっております（診療時間外は内科・外科系医師が担当）。令和4年12月には南河内医療圏の「重症初期対応医療機関」にも認可され、“救急にも幅広く対応できる病院”として徐々に認知されつつあり、とくに小児、急性腹症（消化器外科・婦人科・泌尿器科が連携）や外傷（整形外科・呼吸器外科が協力）の受け入れも増加した結果、令和5年度には2,750件の救急搬送患者さまの診療にあたりました。さらに「救急医療勉強会」の開催や南河内・中河内地域メディカルコントロール協議会での救急活動検証など、救急隊員への助言や指導を通じて救急隊との連携強化を図っております。また、院内急変対応（Rapid Response System）の一翼を担い、日本救急医学会認定二次救命処置(ICLS)コースの定期的に開催し、患者さまに最良の医療サービスを提供できる体制づくりにも尽力しています。

今後、地域医療連携の一環として、救急医療に関する最新のトピックス（心肺蘇生、気道管理など）を随時、発信させていただければと考えています。また、一人でも多くの急変患者さまや重症患者さまの診療を通じて地域医療に貢献できればと考えておりますので、呼吸器・アレルギー疾患はもとより、急性腹症、循環器救急、外傷といった患者さまのご紹介も是非よろしくお願いいたします。



連携医療機関（登録医）のご紹介

医療法人加藤医院

院長 加藤 治人 先生

〒583-0885 大阪府羽曳野市南恵我之荘2-9-6
電話 072-953-5901

平成8年から羽曳野の地で地域医療に携わってまいりました小児科、内科を標榜し、生後間もないお子様から100歳を超えられた方まで診療させていただいております。町のかかりつけ医として常に丁寧な診療を心掛けております。また地域の基幹病院である、はびきの医療センターと連携をとらせていただき、より良い医療が提供できるよう努力しております。患者様に信頼される施設でありたいと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/	/
17:00~19:00	○	○	○	/	○	/	/	/



医療法人森クリニック

院長 森 英光 先生

〒587-0001 大阪府堺市美原区大保16-1
電話 072-363-2662
URL <https://www.mori-med.or.jp/>

森クリニックは平成2年12月開院以来、地域のかかりつけ医（ホームドクター）として幅広い年齢層の皆様の健康管理に貢献できるよう診療して参りました。お子様の成長をご家族と一緒に見守り、皆様の暮らしに寄り添った町のお医者さんとしての役割をこれからも果たして行きたいと思っております。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/	/
17:00~20:00	○	○	○	/	○	/	/	/

受付：8:45-11:30 / 16:45-19:30



◆登録医へのご登録のお願い◆

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。

◆ 事前に予約をお取りください

- ・呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科は**完全予約制**となっております。
- ・上記以外の診療科でも、紹介状があっても予約がない場合は待ち時間が長くなることや、当日受診ができない場合もあります。
可能な限り、事前に診察・検査の予約（地域予約）をお取りください。

◆ 紹介受診重点医療機関の認定を受けました

受診に際しましては、できる限り**紹介状をお持ちいただけますようお願いいたします**。また、ご紹介いただいた患者さんにつきましては、当センターで精査・加療の後、症状が安定しましたら、地域医療機関の先生方へ逆紹介させていただいております。

今後とも、さらなる連携をお願いいたします。

◆ 心臓血管外科・消化器内科の対応につきまして

心臓血管外科、消化器内科では、常勤医師が不在のため、手術等の入院加療が必要となった場合は、他院を紹介させていただく場合がございます。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL : 072-957-2121(代)

＜院内診療科のご案内＞（令和6年9月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科
産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科
歯科口腔外科、麻酔科(高内 裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科
臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

ホームページ



Facebook



Instagram



Official LINE

